

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成20年11月(2008年) No.515

故 森保信氏、内輪の追悼映写会を企画

来年2月22日(日) 難波市民学習センターで

会長 合原一夫

早いもので今年の3月例会日の22日に森さんが急死されてはや1年を迎えようとしています。未だに森さんが「元気にしちよるね」と声をかけて来そうな思いに駆られることがあります。OMCの会計や会場の申込をしっかりとやって頂いておりましたのに未だに残念でなりません。

森さんは、8ミリフィルム時代からの映像ファンで、数多くの作品を遺しておられます。そこで、一周忌を前に、故人を偲んで何本かの作品を上映する機会を設けることにしました。いずれ「森保信さんを偲ぶ会」を立ち上げて具体的に準備を始めたいと思います。会場は難波市民学習センターの一番面積の大きな研修室(50人位はいる)を確保しました。参加クラブは「OMC」「OVC」及び「ビデオサークル堺」の三クラブ合同で考えております。会場費のほか雑費として経費もかかるので若干の会費制になると思いますが、皆さんのご協力をお願いいたします。

なお、午後に映写会をやって夜は会食をしながらの「偲ぶ会」をしたらとの声も出ておりますので、その場合は人数把握のため前もっての申込み制になります。

いずれにしても、長らく故人と親しく映像を軸に楽しませて頂いてきた仲間を偲ぶ、という催しは意義があると思いますので、よろしくご協力ご支援のほどお願いいたします。

■森保信氏の写っている映像カットお持ちではありませんか

森さんご自身が登場する映像カットは皆無とっていいほど見当たりません。撮影会のときなどスナップ映像でも、もしお持ちの方がいらっしゃたら会長までご一報下さい。スチール写真でも結構です。

11月例会のお知らせ

11月例会は第4土曜22日18時より、いつもの大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅上O.C.A.Tビル4階)にて開催。皆様のお越しをお待ちしています。作品の方もどうぞお持ちになって見せて下さい。

■予告(1)

●1月例会は第3日曜日18日13時より。総会及び新年会もありますので、例年通り、日曜の午後は例会と総会、17時頃より5階のレストランへ席を移しての新年会となります。どうぞ予定しておいて下さい。

■予告(2)

12月例会は第4土曜(27日)18時よりですが、その日の午後、幹事会と世話役会を行いますのでよろしくお願い致します。

●幹事会：12月27日(土)13時～14時50分、議題は年度賞選考ほか

●世話役会：同上日時 15時～

議題は来年度役割分担、会計報告他

■予告(3)

来年度会費 8,000 円を 12 月例会日に会計に納入して下さい。

■大阪アマチュア映像祭

11月23日(日)大阪市立中央図書館にて12時半開場13時上映で開催。お誘い合わせの上多数のご来場をお待ちしています。

10月例会レポート

今月例会は気候もよく行楽に出かけた人も多かったのでしょうか。例会は出席者が20名といつもの月より少なかったのですが、作品は16作品と沢山出品されました。今月の司会は吉岡氏、書記、前田氏、デッキ係、河合、江村、増池の3氏、受付兼照明係は奥、宮崎の両氏の担当で会を進行いたしました。

◆出席者：有村、井上、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、進藤、関、玉井、華岡、前田、増池、森口、山本、吉岡、宮崎、新入会員 対馬の20氏が出席。

◆新入会員の紹介

対馬 昭氏 533-0023 大阪市東淀川区東淡路2-4-4-1004 電話 090-2019-3748

E-Mail: irusta_6_matpen@ybb.ne.jp

どうぞよろしく願いいたします。

◆上映作品(今月の記録と講評は前田世話役です)

1. 課題曲2題(SD)

有村 博さん 7分46秒

この作品は、玄光社のテレシネコンテスト向けに作られた作品で、2曲の課題曲を

使って作った2本のテレシネ作品です。1本目の「マークンの宇宙旅行」は作者がOMC入会最初の公開映写会第8回OMCフェスティバル上映作品だそうです(昭和43年於：朝日生命ホール)。小学生の息子さん二人が宇宙船に乗って月旅行に行くというストーリーで、当時の一番の話題を8ミリフィルムで映像化されています。もう一本は「8ミリ空を飛ぶ」です。故小泉さんの小型飛行機によるアクロバット飛行がメインで目が廻るような映像の連続です。40年も前から素晴らしい着想で映像を作っておられたのには驚きです。ロケットの発射シーンの特撮も不自由な8ミリで作っておられ、その努力に感服しました。

2. ふるさとの夏まつり(W)

対馬 昭さん 13分

今月の新入会員ですが、名刺替わりにと持参されました。映像歴は8ミリフィルム時代からだそうで映像経験は長いそうです。ビデオ編集はこれからで、この作品も友人に編集協力してもらって制作されたとのこと。故郷は青森県大鰐だそうで、帰省した時に、大鰐のねぶたと弘前のねぶたを撮って作品にされました。大鰐のねぶたのシーンにスチールが挿入されていたのを司会から指摘されましたが、テープ切れで止むなくスチールで間に合わせたとのこと。

撮影旅行でのテープ切れ、電池切れは辛いですね。そのようなことがない様に準備はしっかりする必要があるということを改めて感じました。最初の鉄道は突飛なので、ないほうがよいのでは、というアドバイスがありました。作品的には佳境に入ってから、ねぶた行列のオンパレードで、観客のアップ、ねぶたのアップが欲しかったです。観客の姿が登場すれば、祭りと観客との一体感が生じてもっと良くなったと思います。8ミリフィルムからの経験で映像はしっかり撮られており、編集が自分で出来るようになればオーソドックスな作風が持ち味ですので今後のご活躍が期待されます。

3. なにわ橋～淀屋橋

増池 茂さん 7分00秒

いつも作者はガッシリと三脚を使用ししっかりとした画を撮っておられるのに、何

故手持ちと一脚使用ですかと伺ったら、今回の撮影旅行は三脚を使えそうにないので、練習をしてみたとのこと。目的は判りましたが、やはり風景などの映像は三脚を立ててガッチリ撮らないと品質が落ちますね。内容は、なにわ橋から淀屋橋までの中之島風景ですが、新開通の京阪なにわ橋の駅が出てても駅名表示がなかったり、突如出る一輪の彼岸花のカットは唐突です。状況を説明するロングかミディアムカットがあってその後にアップカットで繋がりが欲しいとの司会からのアドバイスがありました。後でテープを確認すると、アップの後に花壇のロングカットあるので、繋ぎの順番を間違えたようですね。ロング→ミディアム→アップとすれば完全でした。

4. 琵琶湖疎水

森口 吉正さん 11分

疎水の歴史と京都市が疎水の完成によって近代化が進んだことに触れながら疎水を紹介して行きます。琵琶湖疎水建設を卒業論文として設計した田辺技師も偉かったが、大学出たての若い技師を工事総責任者に抜擢した北垣知事も偉かったと思います。実にしっとりとした情感が醸し出されたいい作品です。編集上ではカット変りでいきなり水音が大きく響くので驚きます。音声のディゾルブをかけるほうがいいでしょう。作者独特の穏やかな語り口が水の流れにそって心地よく響きました。

5. あき 宇治散策

奥 宏さん 6分21秒

快晴の日に宇治を散策した時の映像です。落ち着いた映像と宮下富美夫のBGMはよくマッチしていました。宇治川の流れの中でゴイサギが魚を捕食する映像がありましたが、よく決定的瞬間を捉えています。ラストのナレーションはもっと早くから出して、エンディングは余韻を持って終わりたいと思います。非常に綺麗な映像でした。

6. 盆踊・風俗絵巻

上総 修一郎さん 9分

2005年に撮ったプライベート映像ですが、先月例会で上映された「江州音頭」にちなんで持参されました。映像内容は大半がエレキ入りの近代的河内音頭で肝心の江州音頭が最後に少しだけ披露されただけ

で、双方の音頭の違いが筆者には判らなかったのが残念でした。

7. 十人十彩の舞

江村 一郎さん 6分

作者の故郷の高知よさこいは夏の祭りだけかと思っていましたが、春もやっていました。春のよさこいは夏ほど盛り上がりはないようですが、今回は撮り方を変えて踊りの列の後姿が多い、新趣向を狙ったのですかと司会者からのコメントでした。行列の後ろ姿を狙ったカットはこれまでなかったようで新鮮さを感じました。

8. 大東はだか祭 20-10

紙本 勝さん 8分20秒

全国に祭りがあると聞けば、駆けつけて作品をものにされる行動力にただただ驚くばかりです。今回も茨城県の鹿島神宮の祭りに駆けつけて迫力ある映像を写されてきました。撮影ポイントと海に入る御輿の距離が遠くて迫力ある映像が取れなかったと作者の弁ですが、手前に波が立ち、向こうに御輿が担がれるアップ・シーンは迫力があって良かったと思います。

9. 弘前ねぶた

河合 源七郎さん 8分12分

このところ東北各地のねぶた祭りを精力的に追っかけておられます。7年間も毎年撮影されているとか。突然の大雨で撮影は大変だったようですが、その雨の効果は良く出ています。路面が雨で黒光りするシーンがありましたが、なかなか良かったと思います。ピーカンの天気だけではなく、突然の雨も映像に変化が出て迫力を倍加させてくれてます。また祭りに参加している女性が笑顔を振りまき観客に握手を求めているのは、突発的な出来事でしょうが、よく拾われました。作者のねぶた作品を何本か見せてもらったので、ねぶた祭りがよく判ったような気持ちになりました。

10. カリフォルニア大学パークレー校

井上 勝彦さん 8分46秒

昨年10月に上映された「スタンフォード大学ツアー」に続く第2弾として今夏カリフォルニア大学スタンフォード校を取り上げられました。いつもながらのスムーズなグーグルアースの導入部は素晴らしいです。アメリカの大学の広大な敷地とゆとり

のある校舎の配置、日本の大学とはスケールが違いすぎて想像の域を超えています。学生 35000 人中 40 %がアジア系とか、しかし日本人は 1.6 %と少ないのは何故なのだろうと不思議に思いました。芝生に寝そべって読書している学生もいて、自由な雰囲気羨ましい気分になりました。バロック音楽に載せて映像が展開するせいでもないでしょうが、大学というより、ヨーロッパの中世の重厚な建物の雰囲気を感じました。

11. 小佐渡の港をめぐる

進藤 信男さん 14分50秒

佐渡島の南側、小佐渡山地の南側の本州に向かって開けた港町を一つ一つ訪ねて歩きます。西暦 701 年制定の大宝律令の時代から流刑の地として罪人が流されてきたようで、日蓮上人や世阿弥もこの地へ流されてきたとか。一つ一つの港町の歴史や資料をよく調べられナレーションで紹介していきます。金山で働かされた刑人たちの悲しい物語、小佐渡の港町の悲しい歴史を淡々と語って聞かせてくれます。紀行作品としてなかなかの力作で作者の佐渡にかける熱意が伝わってきます。佐渡作品の本命はトキ放鳥とその後のトキの生態を追っての映像でしょうが、期待しています。

12. なんだか否なモザイクの構図 2

関 剛 3分00秒

久々に発表された関映像作品(パロディ)です。カナダ・トロント博物館にある大きな人物壁画。数多い人物像の中の一人がぐるりとめくられると、歴史上の人物、キリストから始まって、聖徳太子、秀吉、竜馬、等々、現代の有名政治家、レーガン、中曽根、金正日、安部晋太郎などの人物が次々と登場し、その人物に関連する、或いは対抗する人物が目まぐるしく登場します。なかなか作者の意図を汲み取るのは難しいのですが、色んな有名人たち、政治家たちの登場と敵対する人との対比の映像を見せることによって、視聴者に世界の流れというか、世の中の流れを考えて欲しいとのメッセージのように思いました。

13. ミシガン クルーズ

吉岡 貞夫さん 8分12分

琵琶湖観光のミシガンに乗船された記録

です。ミシガンは 1982 年進水だそうで、26 年も経っています。乗船時間は 60 分ですが、バンジョーを持ったアメリカ人男女のショーを中心に日本人女性のダンサーも活躍して、飽きさせないように工夫されています。ミシガン観光は船上から風光明媚な琵琶湖を楽しむのではなく、ショーを楽しむのが主目的かなと思いました。スチームオルガンという説明が出ましたが、どんな音色がするのか聞いてみたかったです。ミシガンに乗ったような気分を味わいました。

14. ベロマンが行く

前田 茂夫(筆者) 9分48秒

いつもながらの、あまるベロマン号に乗ったり、単に列車が走っている鉄橋風景を写しただけの単純な映像でした。類似の作品ばかりでタイトルを付けるにも困るのが実情です。いよいよ工事が本格的に進行してきたので、今までの視点でのような撮影はもう出来ません。

15. 宇治川散策

宮崎 紀代子さん 7分01秒

宇治川付近を散策された時の作品です。宮崎さんのナレーションは声の質といい、イントネーションといい、実に心地よく耳に響いてきます。アマチュアナレーターとして素晴らしい語りだと思います。先の奥作品とは別の視点で綴られています。ナレーションが少し多いかなとも思いましたが、軽快な BGM に載せて身近な宇治を散策してきた気持ちに浸らせてくれました。

16. ぶらり上海

山本 正夢さん 7分30秒

いつも辺境の中国や東南アジア、中央アジアを撮られて楽しませてもらっていますが、今回は上海という一番近い大都会をテーマにされました。世界一の大都会の近代的な側面、豫園の古い中国の対比に目を見張りました。リヤカーで大きな荷物を引っ張る人もいる一方、世界最高速のリニアモーターカーの存在との不思議な共存。鉄道ファンとしては、世界最初のリニアモーターカーに関心があったのですが、走行時間は僅か 15 分だそうで、あっという間に到着してあつけなかったです。しかし車窓風景は流れるようにさすがに速かったです。